

2012年10月25日

「C.W. ニコル・アフアの森財団」とオフィシャルスポンサー契約を締結 ～長野県、信濃町とも「森林(もり)の里親契約」を締結～

株式会社ヤクルト本社(社長 根岸 孝成)は、CSR活動の一環として、「一般財団法人C.W.ニコル・アフアの森財団」とオフィシャルスポンサー契約を締結するとともに、長野県が推進する「森林(もり)の里親契約」を合わせて締結し、当社として初めて森林保護活動の支援を行います。

「C.W.ニコル・アフアの森財団」は、長野県上水内郡信濃町に「アフアの森」を所有しており、そこで、荒廃した里山を、その地域の様々な野生生物が生息できる森に再生することを目指すと同時に、その多様性あふれる森で子供たちの未来の心、人の心も育てていく活動を行っています。当社は、この活動に賛同するとともに、「森林(もり)の里親契約」を通じて、長野県、信濃町と協働で、森林保護活動を行います。

ヤクルトグループでは、「ヤクルト サステナブル・エコロジー2020」を、2012年4月より推進しています。これはヤクルトグループが、低炭素社会の実現、資源の有効利用、生物多様性の保全と活用に取り組み、ステークホルダーとの共生を図りながら、持続可能な社会の形成を目指す活動です。今回の森林保護活動は「ヤクルト サステナブル・エコロジー2020」を実現するための1つの方策として実施します。当社では今後も「人も地球も健康に」のコーポレートスローガンの下、CSR活動を行ってまいります。

契約の概要

1. 契約期間：1年間（2012年10月1日～2013年9月30日）
2. 契約内容：「C.W.ニコル・アフアの森財団」とオフィシャルスポンサー契約
「C.W.ニコル・アフアの森財団」「長野県」「信濃町」と森林(もり)の里親契約
3. その他：2012年10月30日（火）に調印式を実施します。

<参考>

「一般財団法人C.W.ニコル・アフアの森財団」について

荒廃した日本の森を再生することを目的に、現理事長のC.W.ニコル氏が1986年より飯綱山麓に位置する30年以上放置された里山を少しずつ買い取り、整備をしたことがはじまりです。2002年5月に財団法人が設立され、現在に至っています。また、アフアの森は、日本ユネスコ協会連盟のプロジェクト未来遺産に登録されました。

「森林(もり)の里親契約」について

長野県が実施する「森林(もり)の里親促進事業」により、森林整備に意欲を持った地域と社会貢献に意欲のある企業等とが連携して森林づくりを行うための契約です。契約者は当社、一般財団法人C.W.ニコル・アフアの森財団、長野県、信濃町の4者です。当社の活動に対して、長野県及び信濃町が支援、協力を行います。